

会 議 録

平成30年度 第18採択地区教科用図書 第3回選定委員会

招集年月日	平成30年7月19日(木)	開会場所	行田市教育委員会 2A会議室
開閉の時刻 及び宣言者	開会 7月19日(木) 14時00分 閉会 7月19日(木) 16時10分	司会	学校教育課長
会長	行田市教育研究会長	副会長	小学校校長会長
席次番号	出席の委員	摘 要	
1	行田市教育研究会長		
2	小学校校長会長		
3	中学校校長会長		
4	行田市PTA連合会長		
5	学校教育課長		
議 事 参 与 者			書 記
学校教育課指導主事兼主幹			書記 学校教育課指導主事兼主幹

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	開会
会長	あいさつ
司会	議事に入る。議事の進行については、第18採択地区教科用図書選定委員会要項第9条2項により、第18採択地区教科用図書選定委員長様にお願ひする。
会長	はじめに、第18採択地区教科用図書選定委員会要項第12条により、次第（1）の「協議」は公開、（2）の「選定」は非公開といたしたいと思うが、よろしいか。 【全委員承認】
会長	事務局。傍聴される方は、来られているか。傍聴する方がいたら、傍聴について説明し、案内をお願いします。
事務局	（事務局より傍聴人に説明する。） ※傍聴人規則の説明 ※（1）の「協議」は公開、（2）の「選定」は非公開についても説明し、説明後、2A会議室へ案内する。 （傍聴人着席）
会長	それでは、協議に移る。協議の進め方は、国語から1教科ごとに進めていくことでよいか。 （賛成の意見）
会長	協議に入る。 国語についてご意見がありましたらお願いします。
委員 B	国語
委員 E	・扱いやすい教科書がよい。そして、安定感のある教科書がよい。
委員 C	・光村図書は、読み取って書く力が求められている中で、読むことで習得した技能を書くことで活用できるしくみになっている。
委員 D	・光村図書は、見やすい。系統的にも扱いやすい。挿絵や資料の充実と発達段階を踏まえた内容が充実している。
委員 B	書写 ・見やすさや親しみやすいキャラクター、文章等が分かりやすい点が書写の教科書には必要であると思う。
委員 B	・筆使い、筆の運びなどが学べるものが大切である。教科書の見やすさも大切な視点だと感じる。
委員 A	社会 ・東京書籍では、社会科として、学び方を学ぶことに視点をおいたつくりになっている。さらに、説明や論理的にまとめる力、まとめ方などの言語活動にも重点をおいて教科書を作成している。
委員 B	これらことから、思考力・判断力・表現力等の国が求めている力を育成できるように配慮されている。 ・今後、話合いの学習が大切になってくる。今使っている教科書の3年生から「学び方コーナー」という話合いの力を育成する観点から、「活かす」というキーワードが社会との関連からも分かりやすくなっている。
委員 C	地図 ・サイズが大きいものが見やすい。帝国書院は、色が落ち着いて

委員 E	<p>いる。その為、地図を凝視するときに落ち着いて調べられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末を見ると最近の「西日本の災害」などの観点から、どちらの教科書も防災関係は取り上げている。しかし、帝国書院は、身近なところの防災関係に関連したものが多く取り上げられている。
委員 D	<p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京書籍は、字の大きさが見やすく、文章が読みやすいと感じた。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに理解させるための工夫がどの会社にもあった。若干難易度が各会社によって違うところも感じた。基礎・基本を学ばせることができる教科書がよいと思う。教師が上手に教科書を使って、子供たちに理解させる工夫ができる教科書がよいと感じた。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書をうまく使うということでは、教師も勿論そうであるが、子供たちがもう一度振り返ることができるものがよい。特に算数では、繰り返し問題を解くことで、自分の基礎・基本を身に付けていくことができるようにすることが求められるので、見やすさや問題がしっかり用意されているものがよい。
委員 B	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの教科書も、学習内容に関わる写真や図がとても見やすく分かりやすく設定されていて、とても素晴らしいと思った。また、課題提示もそれぞれの教科書では、分かりやすく書かれているため見通しが持ちやすいと感じる。さらに、観察・実験のところでは、器具や材料一覧表が記載されており、手順についても写真や図を使って表現されている。初めて手にする子供たちにとっては学習しやすい。若手の教員も増えているので、指導する上で有効である。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・実験がとても大切であると普段思っている。何のための実験なのかを丁寧に子供たちに提示している教科書が多い。小学校のときから実験が大切なんだということを示している教科書がよい。 ・実験では、実験で危険が予測される場所を、「注意点」として示していることも大切である。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・理科は事物・現象を見せることが大切である。写真などで疑似体験を通してそれらを伝える工夫が各会社で見られる。また、実生活との関連を示している教科書もある。自分の身の回りのことと置き換えて考えることができるので、そのような教科書もよいと感じる。
委員 B	<p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から小学校へのスタートカリキュラムの視点では、どの教科書会社も意識はしていた。特に1・2年生の子供たちが興味・関心を持って学習できるよう工夫が求められる。情報量が多過ぎても興味・関心はわからない。また、やってみたい・さわってみたいと思うような学習内容の提示がされているものがよいと思う。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・理科との関連で、自分の身の回りに子供たちは興味・関心をもつ。外に出て学習するときに、自分で調べられる教科書が必要である。例えば、自分でつくる図鑑や観察したくなるようなものなど各会社で、様々な工夫が見受けられる。 ・身の回りにあるもの、生活に根ざしたものが多く掲載されている図や写真があるものがよい。また、それを手がかりにできればなおよい。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から小学校へ。そして3年生への社会科、理科、総合的な学習の時間への接続へと配慮されている教科書がよい。また、子供たちが主体的に学習に取り組めるような視点があるものがよい。児童の思考を促し、気づきの質を高める教師の言葉かけなどにも配慮されている教科書もあった。
委員 D	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜や文字が見やすい教科書がよいと感じた。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・今学んでいるところがどのへんなのかが分かるようになって

	<p>いるのがよい。例えば、教育芸術社は、番号などが書かれており、工夫されていた。</p> <p>図画工作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしいイメージを小学校期の子供たちは持っている。そのため、自由な創造ができるイメージを大切にしたい教科書がよいと思う。 ・イメージづくりのヒントが写真などで掲載されているものがよい。子供がワクワクするような教科書がよい。 ・子供たちが創ってみたい。やってみないとワクワクする教科書がよい。
委員 B	
委員 D	
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらの教科書も、掲載されている写真は、参考写真であるが他にも、キャッチコピーが子供の実態にあうような教科書がよい。
委員 C	<p>家庭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な道具や火を扱う上での注意事項がしっかり掲載されているものがよい。
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな教材との出会いを大切にしているものがよい。また、家でもやってみようと思うようなチャレンジ精神を促す工夫がされている教科書がよい。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活に活かせるものがよい。その為には、基礎・基本を身に付けることが必要である。知識や技能を身に付けられる教科書がよい。
委員 B	<p>保健</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実生活に活かすのは保健も大切な視点である。どの教科書も今日的な話題と課題を載せているところがよい。しかし、そのようなことを単なる知識として身に付けさせるだけでなく、その教材をもとにして、考える力や話合う力などを養えるような教科書がよい。また、図や写真を上手に配置しているとインパクトがあるが、その点は各教科書によって差があった。
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で教えきれなかったこと、またあいまいに教えてきたことをしっかり教えるのが保健の授業である。教科書の写真や図は、例えば手の洗い方などを丁寧に掲載されている点がよい。そのような観点から見ると、どの教科書もよかった。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になると、薬物乱用防止教室や喫煙防止教室等を学校行事や学年で行うことがあるが、保健の学習でしっかりした知識を身に付け、今後の行動につなげさせていくことが大切だと感じた。また、行田市では、AEDの使い方についても中学校で学習する。中には、小学校からその点について扱いのある教科書もあった。今後この視点は、大切であると思った。
	<p>中学校「特別の教科 道徳」</p> <p>東京書籍</p>
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめのない世界へ」は、今の課題に沿ったものである。目次を開いたとき、色が変わっているなど、大切にしているポイントが分かる。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びを振り返ろう」は、切り取り線がついていて扱いやすいが、担任が道徳の授業をつくるという点も大切にしたいので、丁寧すぎるのではないかいということも感じた。
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」は、道徳の学習を進めていくうえで、なかなか意見が出せない生徒の実態を考えると工夫されていると感じた。また、巻末の心情円なども1つの工夫である。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい道徳」という題名に意気込みを感じる。また、「いじめのない世界へ」は、教材が2つ設定されていて、身近な話題の中からのものであると感じた。また、中学生は素直に心の中を表現することが難しいと思われる中、心情円は手軽に心の中の様子を表現しやすいので工夫されていると思った。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を引く写真が多い。逆に、イラストは弱く感じた。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクション」は、役割演技を主体とした活動や、「つぶやき」の欄、巻末のホワイトボード、心情円などの資料が充実し、指導

	<p>する教師にとってのアイデアや工夫で効果的に利用できるのではないかと感じた。子供たちがより主体的になって学習に取り組めるのではないかと感じた。</p>
委員 C	<p>学校図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を学習していくのかが分かりやすい。学び合いに向かうためにまず自分で考えることができる作りである。また、自分自身をじっくり見つめ、学習を深めていくうえで、丁寧な作りになっている。また、心の扉を掲載しているなど、子供たちにとっても分かりやすく見やすい教科書である。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの仕方などについて、始めにおさえておくべきことをしっかりおさえている点に工夫を感じた。資料についてもバランスよく扱われていると感じた。ただ、目次では、いろいろなマークがあり、その必要性が本当にあるのかが疑問である。子供たちがそれぞれの価値を知る必要性があるのか疑問である。
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ対して、この「教科書が目指すこと」というページがあり、保護者を意識した教科書でもある。ただ、内容項目を子供に示した上で、どのように教科書を使って授業を進めていくのかが見えない。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に書いてある内容項目と、題材の最後に書いてある「みつめよう」があり、この題材に迫るために、また、道徳的価値にせまるために、これらをセットで入れることで、子供たちが道徳的価値を感じることができる工夫がされていると思った。子供たちの成長や変容が感じられることのできる教科書になっていると感じた。
委員 D	<p>教育出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料が多く掲載されていると感じた。また、教科書が最近は大きくなっているなかで、このサイズは扱いやすいとの意見を持った。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・シンプルに小さくまとまっているのは、余計なものを避けてつくられているのではないかと感じた。ただ、資料の最後に「学びの道しるべ」があり、これは発問である。この発問が初めから記されているのが果たしてよいのか疑問を感じる。また、最後に評価をすところがある。例えば「子供の輝き度」については、どのように考えればよいのかと感じた。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの題材に対して、導入への発問がある。ある意味での課題解決になるのか分からないが、扱う教師にとってはどうなのかと感じる。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に導入を設けて、学習のねらいを明確にしていた。そして、「学びの道しるべ」では、3つの問がある。それに連携させて、道徳的価値を考えさせようという考え・深める方法をとっている。そして、「やってみよう」では、役割演技等の体験を通して、実社会に活かしていこうという構成になっていた。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に道徳の教科化に向けて新しい試みの視点を取り入れていると感じた。
委員 C	<p>光村図書出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学びのテーマ」では、テーマに迫るための考える観点が示されていた。子供たちにとっては、これで考えていけばよいのかという観点が示されているのかと感じた。それから、巻末には「橋の上のおおかみ」という題材があった。これは、小学校でも扱いのある題材である。中学生としてはどのような意見が出るのか興味深い。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の題材を、もう一度中学校で扱うのが面白い。例えば、2年生は「泣いた赤鬼」を扱っているが、小学校だと赤鬼と青鬼の2人の心情を考えていくと分からなくなってしまうこともある。中学生としては、2人の心情を巧みに考えていくことができると思うので、面白いと感じた。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の最後の所に、一連の流れが掲載されている。若い先生方には、授業を行う上での指針となる。

委員 E	<p>日本文教出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラストがきれいである。写真をみれば内容も把握できるほどきれいであった。道徳ノートを分冊で作成している点も特徴であると思う。しかし、両極端な考え方が出ると思う。教師が活用できる手軽さや扱いやすさが考えられる一方、生徒の考えを深めることを阻害してしまうおそれもあるのではないか。ノートに書いたことで、友達の考えと比較し、自分の考えを修正してしまい、本当の自分の考えを逆に伝えられない可能性もある。教師の技量によって、ノートが生きるかどうかというのがきまってくると思った。これから道徳は、教科書を中心に授業をしていくことになるので、そのあたりの難しさを感じた。その丁寧さがどのようにでるのかと思う。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にそって授業していくので、中学生としての実態から、そこまで丁寧にいろいろ設定しなくても大丈夫なのではないかと感じる。また、「キャプテン翼」などの教材もあり、親しみは感じられ面白いと思った。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関するものが丁寧に取り上げられている。また、別冊に関しては、書くことだけに終始することがないようにしてはいけないことと、自己評価の振り返りもあるので、教員の評価も左右されないようにしないといけないなど感じる。きちっと、子供たちが考えている様子を見ながら評価することが大切であると感じる。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物が写真で紹介されている。これは、議論する上で、とても有効であると感じた。また、発問例も掲げているので、授業しやすい流れになっているのかと感じた。
委員 D	<p>学研教育みらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容、題材といい、また資料や写真としてもよいと感じるものが多かった。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・大きめの教科書であるが、文字が大きいわけではなく、また分からない言葉については、しっかり解説もついており、身近な題材を用いていると感じた。
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目や主題名などの話題が先程から上がっていたが、学研はあえて、シンプルである。子供たちが特に先入観を持たないで話の中に入ることができるのではないかと感じた。さらに子供たちの問題意識や、作品を読んだときの意識を大切にしているのだと感じた。「クローズアップ」が後ろについており、関連情報を取り入れることによって、さらに今後の生き方について考える機会を付け加えていることで役立っていると感じた。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・学研の教科書だけ大きい。厚さも会社によっては厚いものも少し薄いものもある。中学校で課題になっているのは、教科書が重くて徒歩で通学する子供たちが全ての教科書を持つことが負担となっていることである。その視点で考えると道徳は、副読本の時から教室において、学校でいつでも見られるようにしているので、厚さや重さや大きさなど、特段大丈夫であるかと思った。それにしても、学研だけなぜ大きくしたのか不思議に思った。中身については、いたってシンプルであった。タイトルがあり、すぐ資料になる。そのタイトルを見て、授業にスムーズに入ることができ、導入としてはよいのではないかと感じた。
委員 D	<p>廣済堂あかつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中身も大切だが、分冊などの管理方法も考える。例えば、なくなった時にどうするかなどである。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・分冊については、補充の資料として充実しているとは思っている。しかし、ノートの最後の評価のところでは、5段階で設定されており、例えばどの段階でどのように評価すればよいのか逆に迷う。道徳とは、心にしみて、価値に気付いて、自分が高まって実践していくわけであるが、その実践場面が次の日から実践すればよくできたのかというものではない。道徳は、心の変容をねらっているので、今はできなくても、やがてできるようになればよいので

委員 C	<p>あると思う。何年かして、行動に表れたとしてもよいのだと思う。したがって、今の段階で、「できた・できなかった」というのを段階評価でどのようにチェックすればよいのか疑問に思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考え、話し合うことで、表現を深める教材が多くあると感じた。 <p>また、有名な人物の言葉がのっており、何かの参考になると感じた。</p>
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にイラストが興味深い。すごく迫力のある絵もあるし、資料によっては柔らかなタッチを使っているものもあるし、すごく力強い絵を取り入れたりしていた。また、巻末には、情報社会の関係のものや持続可能な社会のものも取り入れていて、現代における問題提起を付け加えているので役に立つのではないかと感じた。
委員 E	<p>日本教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトルがあり、教材があるというシンプルなつくりとなっている。また、イラストも柔らかなタッチのものが多い。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・各資料を見ると、文章の上と下にラインが引いてあるだけでも、読みやすいと感じた。タイトルがあり、資料が読みやすくシンプルなつくりであると私も感じた。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・構成として、ABCDとして掲載されている。順番ではないとは思いますが工夫されていると感じた。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの内容項目は、学習指導要領の観点と合わせて指導できるように工夫されていると感じた。
会長	<p>「特別の教科 道徳」についてのご意見は、他にないか。ないようであれば、次に移る。</p>
会長	<p>以上、小学校教科用図書10種目と中学校校「特別の教科 道徳」についての協議が終了した。</p>
会長	<p>これより、投票による選定に入る。 ここから先については、非公開とする。傍聴者の方は、退席をお願いします。</p>
	<p>(傍聴者 退席)</p>